

## 実証実験の実施目的

- ✓ 生産者や納入市場にも対象範囲を広げて  
将来にわたって秋田県の実証実験が持続可能な状態に保てる問題解決を目的とする

## 今年度のゴールイメージ



首都圏へ

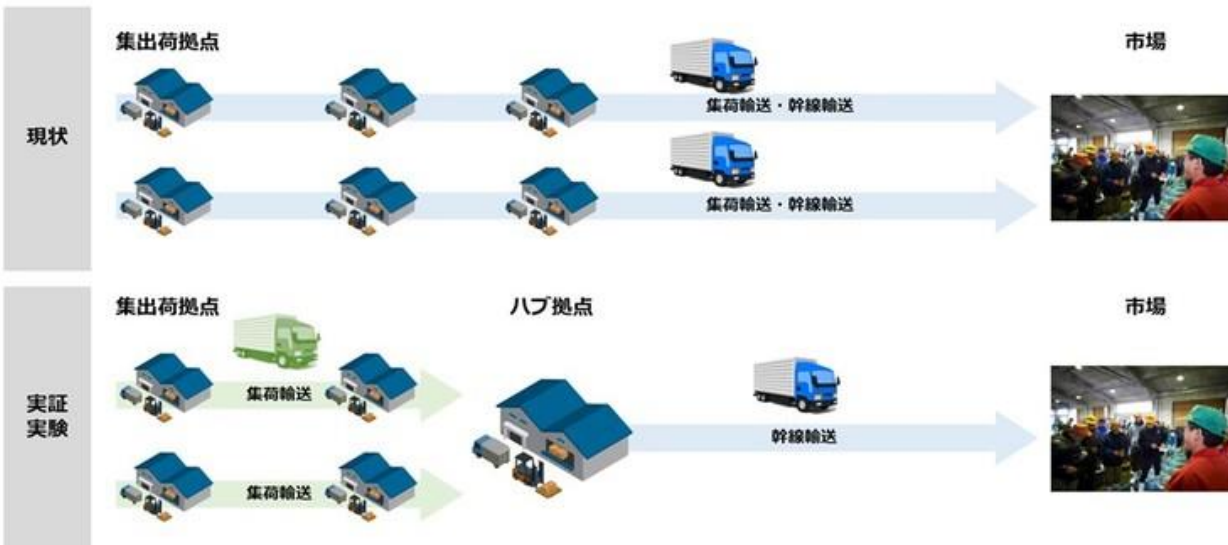


- 今年度の狙い
- 次年度以降と同様の体制で【通年化実施】の最終確認をおこなう

# 令和3年度 実証実験概要

## 【実証内容】

- ①集荷と幹線の分離による  
ドライバーの労働時間削減
- ②集荷ルートの見直し
- ③ICTによる物流情報の可視化



## 【実証実験の成果・想定効果】

実証実験時の 創出成果	ドライバーの 労働時間削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幹線便ドライバーの平均労働時間は13時間07分となり、実証実験前と比べて平均2時間11分削減することができた（△14.3%）</li> </ul>
	ICT導入による 現場作業の見える化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トラック待ち時間の活用、生産性意識の向上、FAX送信工数の削減など、現場における改善効果に寄与</li> </ul>
課題解決時の 将来想定効果	コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実証実験前よりも約5%低いコストでの運用が可能</li> </ul>
	ドライバー 付加価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 総労働時間は、1週間で199.7時間（22.9%）の削減が見込める</li> <li>• 幹線便ドライバーが生み出す付加価値（ドライバー1時間当たりの売上）は、実証実験前と比較し約1.3倍に増加</li> </ul>

# 令和4年度 実証実験概要（取り組み内容）

令和4年度では、生産者、他県、首都圏市場も新たに巻き込み、課題解決に向けた取組・検証を行った

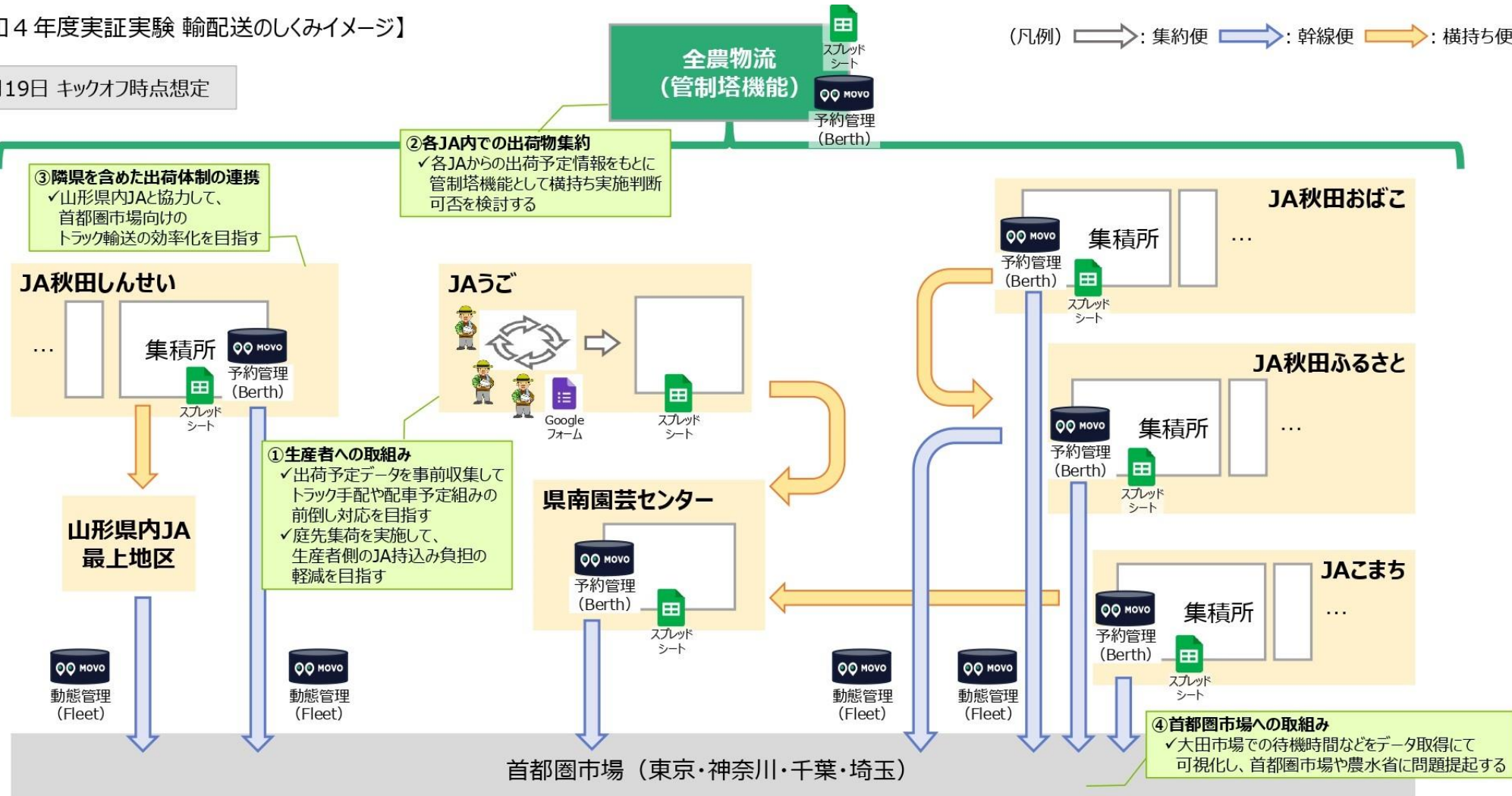
解決すべき課題	取組みテーマ	対象分類			取組み全体概要
		生産者	物流※	市場	
高齢化した生産者の負担軽減 ドライバーの労働環境改善 青果物流コストの適正化	① 生産者の取組 (生産者出荷量の事前把握)	●			・ <b>生産者</b> からの出荷データ共有による計画的な出荷・運行
	② 各JA内での出荷物集約		●		・ドライバー拘束時間の削減 ・集積所からのフル積載直送便の導入による <b>繁忙期対応</b> 体制の整備
	③ 隣県を含めた出荷体制の連携		●		・ <b>他県との協力</b> による首都圏向け幹線便の積載効率向上 (便数の適正化)
	④ 首都圏市場への取組			●	・ <b>首都圏市場</b> での待機時間の解消などによりドライバー拘束時間の削減（農林水産省との活動）

※「物流」は、各JA・全農物流・各運送事業者の物流業務を担うメンバーを指す

# 令和4年度 実証実験概要 (イメージ)

【令和4年度実証実験 輸配送のしくみイメージ】

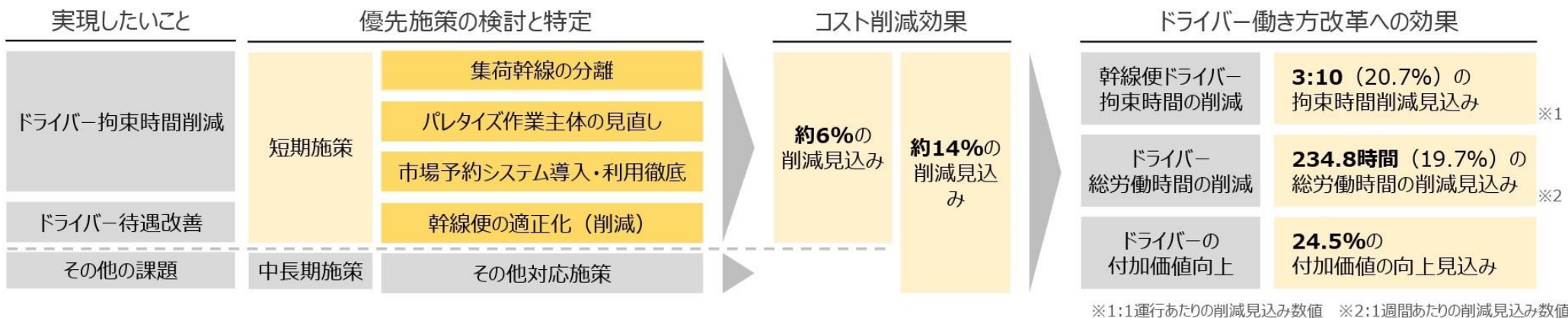
7月19日 キックオフ時点想定



# 令和4年度 実証実験概要（実施結果）

秋田県の青果物輸送が持続可能な状態を保つために、トラックドライバーの働き方改革に向けた実証事業を実施した。得られた課題から、ドライバーの拘束時間削減と待遇改善につながる施策案を定義し効果試算を行った。それらを踏まえ、2024年以降も安定した青果物輸送を実現していくためのスケジュールを提言した。

<b>目的</b>	<b>トラックドライバーの働き方改革を通して、将来にわたって秋田県の青果物輸送が持続可能な状態を保つ</b>	
<b>実証事業の概要</b>	2022年9月4日～10日の7日間、秋田県の県南エリアから首都圏（各市場）間の青果物輸送を対象に実施。	<b>実施結果</b>
		物流効率化に向けた4つの取組みを実施し、課題を明らかに <ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行効率の最大化</li> <li>• 首都圏市場での荷降ろし効率化</li> <li>• 生産者向け庭先集荷の効果測定</li> <li>• 隣県との共同配送の可能性検討</li> </ul>



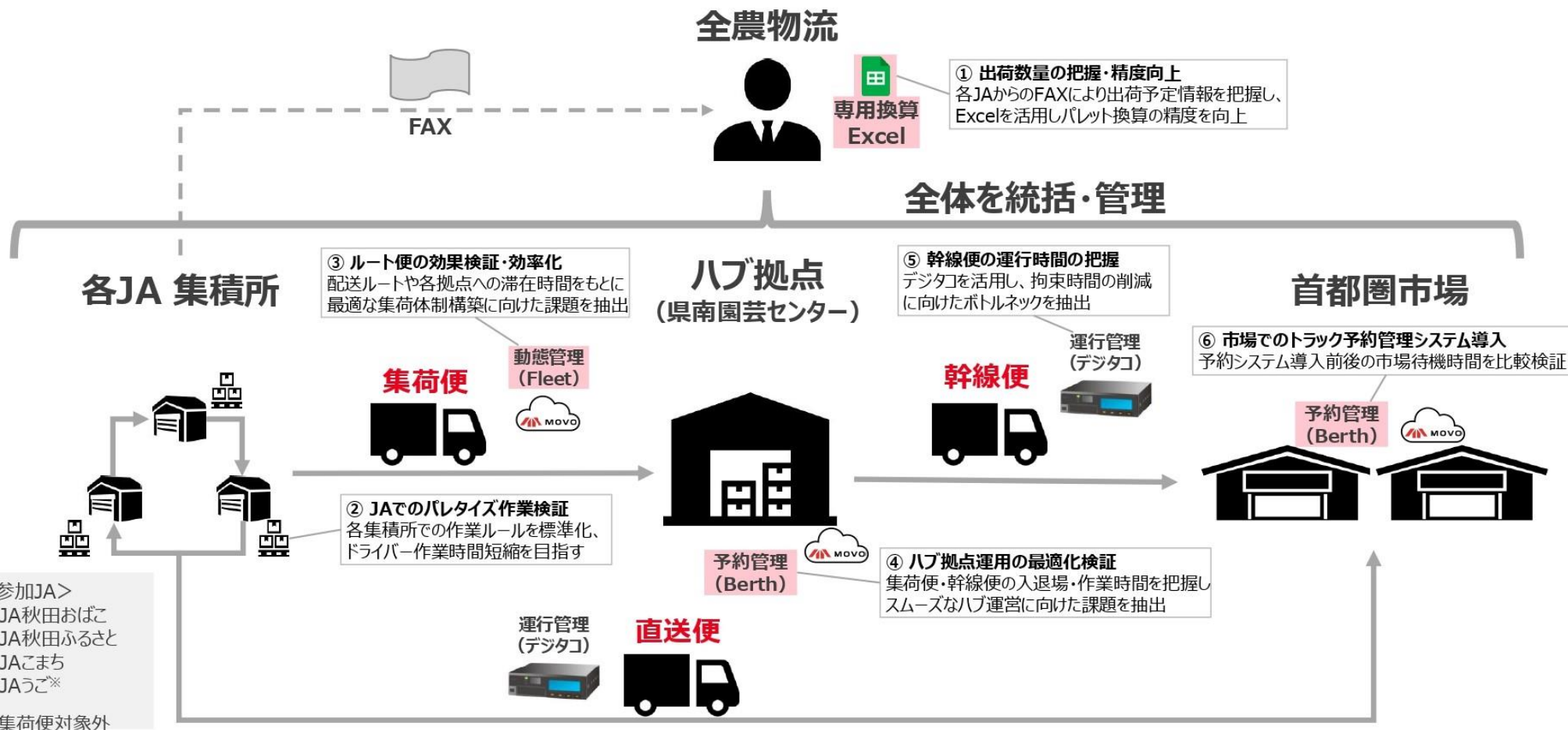
**改革に向けた提言** 2023年前半期に短期施策の具体化・詳細化を検討。待遇改善に重点を置いた「中長期施策」も同時並行で検証。2024年以降も安定した青果物輸送を実現していくためのスケジュールを提言した。

# 令和5年度 実証実験概要（取り組み内容）

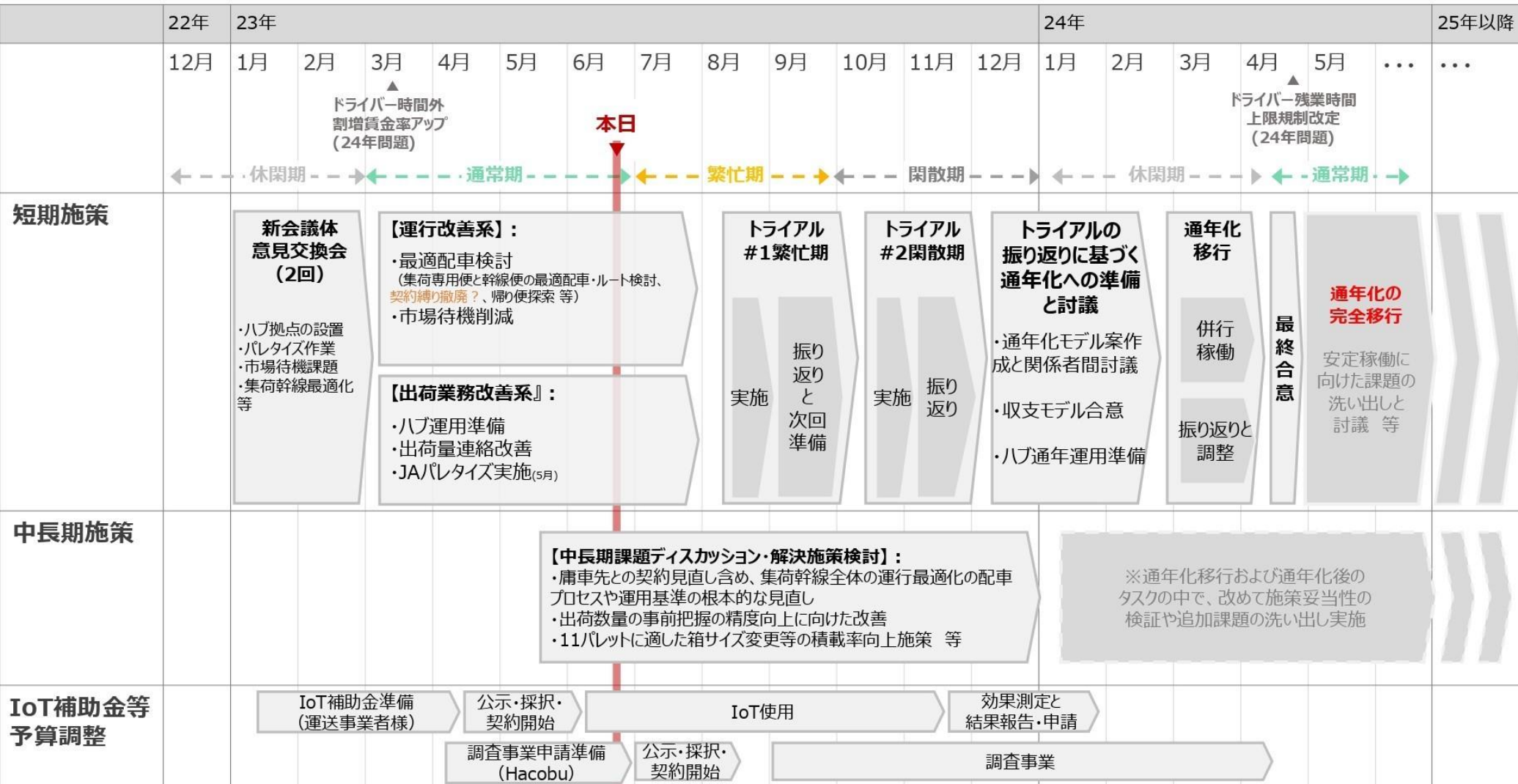
大テーマ	詳細テーマ (取組み)	取組み概要
直送/集荷/幹線便 による輸送最適化	直送/集荷/幹線便 運用設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>集積所から首都圏市場への直送便を優先的に配車組みをおこなう</li> <li>直送便に満たない物量は集荷便でハブ拠点に集約し、幹線便で出荷する</li> <li>仕向先市場の見直し（契約縛りの撤廃）も並行して実施</li> </ul>
	幹線便（直送便） 台数の最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏市場向けの幹線便・直送便の積載率を改善し台数を最適化する</li> </ul>
	ハブ拠点運営管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハブ拠点を県南園芸センターに設置する ※現時点での実証時暫定設置</li> <li>各集積所荷物の集約で幹線便の積載率を向上（最適化）する</li> </ul>
出荷情報連携	出荷情報連携・ 精度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷前日の午後FAXでの物量連絡（ケース単位）を徹底する</li> <li>受領情報からパレット単位の物量に変換して、車両配車手配に活用する</li> </ul>
パレット運用/ パレタイズ作業の 最適化	パレタイズ作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各JA内で仕向市場・品目単位でパレタイズ実施する</li> </ul>
	パレットの運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>パレットサイズ（1100x1100）を統一する ※一部特殊ケースサイズ品目を除く</li> <li>雑パレット回収業務をなくすため、レンタルパレット運用に集約する</li> </ul>
首都圏市場 予約管理	首都圏市場の 待機時間削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の首都圏市場にバース予約システムを導入を検討中 （待機時間の改善活動も実証実験時での実施に向け調整中）</li> </ul>

# 令和5年度 実証実験概要 (イメージ)

【令和5年度実証実験 輸配送のしくみイメージ (案)】



# 令和5年度 実証実験概要（スケジュール）





# 令和5年度 実証実験概要（体制）

【令和5年度実証実験プロジェクト体制（案）】

## 【トラック輸送における取引環境・労働時間改善秋田県協議会】

【連携先：秋田未来物流協議会】R4.7月発足

（旧：秋田の未来の物流を考える協議会）

実証実験主要メンバー：

全国農業協同組合連合会 秋田県本部	園芸畜産部次長	高橋 様
全国農業協同組合連合会 秋田県本部	園芸畜産部園芸課 副審査役	浪岡 様
全農物流株式会社 秋田支店	支店長	高橋 様
全農物流株式会社 秋田支店	副支店長	松田 様
全農物流株式会社 秋田支店	十文字事業所長	菅谷 様
羽後運輸株式会社	代表取締役社長	大山 様
羽後運輸株式会社	常務取締役	高橋 様
川連運送株式会社	代表取締役社長	阿部 様
川連運送株式会社	取締役事業統括本部長	石塚 様

生産者

集積所への  
青果持ち込み

JA各集積所

実証実験青果  
引き渡し場所

全農物流株式  
会社 秋田支店

高橋様、松田様  
菅谷様

羽後運輸  
株式会社

大山様、高橋様

川連運送  
株式会社

阿部様、石塚様

実証実験の事務局

取引環境・労働時間  
改善秋田県協議会  
事務局

東北運輸局  
秋田運輸支局

阿部様

秋田労働局  
労働基準部監督課

佐藤様

秋田県トラック協会

赤上様、三杉様  
奥田様、白土様

実証実験コンサルタント

株式会社Hacobu

プロジェクト実行責任  
プロジェクト全体管理および  
ICT導入サポート  
重成、飯塚  
都築

アドバイザーボード

国交省 自動車局  
貨物課

運崎様、高橋様  
武笠様、佐藤様

国交省 東北運輸局  
自動車交通部 貨物課

山中様

実証実験のオブザーバー

秋田未来物流協議会  
事務局

秋田県産業労働部  
商業貿易課

干場様、鎌田様